市政を問う！

代表質疑・議案質疑・一般質問

令和3年第4回定例会・令和4年第1回定例会

令和3年 第4回定例会
- 12月 8日
- 9日
- 10日
- 13日

令和4年 第1回定例会
- 2月 24日
- 25日
- 28日
- 3月 1日

●質疑…市長に対し議案の内容や提案の理由などについて、疑問の点や不明な点を問うこと。
●一般質問…議員が本会議で一般事務や将来に対する方針など市政全般について質問すること。

桑名市議会議員　辻内裕也、副議長 畑紀子の両名については、議会の運営を円滑に進めるため、またより公平・公正な立場を尊重し、一般質問並びに議案質疑等は自粛させていただいております。

絆　太田（おおた）　誠（まこと）

戸別受信機（緊急防災ラジオ）の概要について

質問　**デジタル防災無線は、閉め切られた家屋の中では聞こえにくい。令和２年６月議会にて、近隣市町のＦＭ放送を活用した戸別受信機を紹介したが、それが桑名市において令和３年度に予算化された。放送設備の概要は？**

答弁　市の緊急放送は、ＣＴＹコミュニティＦＭの電波を利用して緊急防災ラジオから放送する。この緊急防災ラジオは特殊な信号によって自動的に機器が起動して、市の緊急防災情報のほか、緊急地震速報や津波情報など、Ｊアラートの緊急情報を聞くことが可能となる。

コロナ禍に対応したオンライン授業から

質問　**令和３年９月に６日間行われたタブレットを使ったオンライン授業のハード面、ソフト面の課題を問う。**

答弁　市内小・中学校では事前にマニュアルの作成、操作研修、接続テストを行ったが、ハード面では兄弟の同時接続で接続が切れるなどの不具合や、ソフト面では、教職員の指導の不慣れから話や進行が早過ぎるという指摘を受けたりするなどの課題が残った。

伊勢大橋架け替え工事の整備状況について

質問　**市長は、国土交通省並びに中部地方整備局などへ要望活動をしているが、整備の最新情報は？**

答弁　現在までに橋脚 11 基が完成。令和２年度発注の橋脚３基と令和３年度発注の橋脚１基、橋台１基は工事中。また防災・減災、国土強靭化に向けた道路の５か年対策プログラム中部ブロック版で、令和５年度に橋梁の上部工に着手するとの発表がされている。

未来　水谷（みずたに）　憲治（のりはる）

桑名の魅力を発信して観光客誘致

質問　**ＶＲやＡＲ等デジタル技術を活用した情報発信は、市内の方には魅力の再確認をして頂けて、市外の方には観光客の誘致につながる。今後、市はそれらの導入をどのように考えているか？**

答弁　ＶＲ、ＡＲ等のデジタル技術が、歴史的・文化的資源を観光資源と様変わりさせる可能性を期待し、観光客の周遊促進の為「ＡＲ桑名城」という企画を進めている。まずは、住吉エリアにおける観光客の動向や波及効果等の影響をみながら、実施範囲の拡大や別のコンテンツ等の導入について検討してまいりたい。

障がい者水害マップについて

質問　**市は令和３年防災マップを作成・配布したが、障がい を持つ方 、いわゆる災害弱者には対応していない。**
大切な命を守る為、それらの皆さんに対応するマップの作成についてどのように考えているか？

答弁　ハザードマップを用いた避難対策の検討を障がい者ご自身にお願いするのは災害対策上とるべき手段ではなく、避難対策用のツールとしての有効性は相対的に低いと認識している。市は自らの力だけでは避難できない方々に対し、災害時の支援者と支援法、そして避難方法と避難場所を記した「個別避難計画」が必要で、その計画を策定する過程で必要な対策をお伝えした方がより深い理解を得られると考える。先ずは避難対策上の優先順位の極めて高い方への個別避難計画の策定を進めたいと考えている。

フォーラム新桑名　松田（まつだ）　正美（まさみ）

伊勢大橋の架け替え工事と国道１号の拡幅工事について

質問　**伊勢大橋の架け替えの理由の１番目は、橋の老朽化と慢性的な渋滞、２番目は災害時の避難経路としての機能確保、そして、物流の大動脈として20 トンを超える車両の行き来を可能にすることであると考える。国道の拡幅も含めて、最新の進捗状況を確認したい。**

答弁　国道１号の重要な橋としての役割を担っている伊勢大橋が、渋滞箇所や、20 トン超過車両通行規制区間の存在などの課題がある。課題解決のために拡幅整備などを行うことで、災害に強い道路機能の確保、交通渋滞の緩和などの効果を見込んでおり、道路部と歩道部の拡幅や、右折レーンの設置が計画されている。そして、観光地や主要都市への交通がスムーズになることで、地域の活性化が期待できる。
現在、橋脚 15 基、橋台２基のうち、橋脚 11 基が完成。今後についても、早期の完成を念頭に、引き続き国に対し要望していく。

未来　近藤（こんどう）　浩（ひろし）

「新型コロナウイルス感染症対策」について

質問　**第６波への備えは？**

答弁　第５波での経験を生かし、三重県、保健所、医師会などの関係機関と連携し、必要な医療体制の整備と検査体制の充実を図り、市民の命と生活を守るために しっかりと取り組んでいく。

「コロナ禍における学校運営」について

質問　**第６波における学習機会の確保は？**

答弁　第５波での経験を生かし、学校・学級閉鎖時にもリモートと対面、デジタル教材とアナログ教材の効果的な組み合わせなどにより、児童・生徒の実情に応じた学習指導を工夫し行っている。

「三岐鉄道北勢線」について

質問　**今後の支援継続は？**

答弁　北勢線は、多くの地域住民の重要な交通手段を担っているため、次年度以降の支援継続を前提に、沿線市町と三岐鉄道とで協議を重ねている。

「文化振興」について

質問　**桑名の千羽鶴の得来への伝承は？**

答弁　桑名の千羽鶴は、桑名が全国に誇れる伝統ある無形文化財であるため、後世へと受け継がれて行けるよう裾野を広げ、継承の体制を作っていく。

「道の駅」の設置について

質問　**道の駅設置の可能性は？**

答弁　設置の可能性について、調査研究を行っていく。また、設置に向けて公民連携手法での民間提案があれば、対話を進めていきたい。

絆　南澤（みなみさわ）　幸美（ゆきみ）

多度地区小中一貫校整備事業について

質問　**地元の期待も大きく、特に就学前の子どもを持つ保護者からは、整備が待ち遠しいとの声を頂いている。地元議員としては、一刻も早く整備をという気持ちであるが、今回の事業遂行は残念である。１日も早く整備着手に向けて努力頂きたいと思う が、令和４年４月からの体制についてのまとは。**

答弁　現在、多度地区では、地域の児童生徒数の減少が進み、教育環境を維持する上では、まさに本事業の整備は待ったなしの状況であると認識している。令和７年４月の新校舎開校が間に合わなくなり、非常に残念である。令和４年４月以降の体制については、教育委員会内部の新たな人員体制の構築を指示するとともに、さらに市長部局と教育委員会の連携及び強化を図り、１日も早い事業の完成を目指していきたい。

令和４年度当初予算について

質問　**市長の戦略的な思いは。**

答弁　社会を取り巻く様々な要因により、行政が抱える諸課題は、より一層複雑化し、その変化のスピードも速くなっている。こうした中で、桑名市が持続可能なまちとして あり続けるために、総合計画を着実に推進し、まちの魅力や価値を成長させるとともに、新たな発想や技術によって進化させることで、あらゆる変化に対応できる持続可能なまちを目指していこうと、「変革を当たり前に」を合言葉に、自らが先頭に立って、予算編成を進めた。

桑風クラブ　市野（いちの）　善隆（よしたか）

多度地区小中一貫校整備の課題

質問　**この方針が示されて６年。地元説明会が度々開かれ、現小学校の統合による分離型小中一貫校や市長の説明会への出席を求める声があったが実現せず、整備地も大きな課題であった。平成 30 年３月定例会で、私の質問に対し市長から「場所は白紙」との発言があり、再協議の結果、多度中小周辺を用地拡大し、令和７年４月小中一貫校開校の方針となったが、当初から用地買収の課題が指摘されており、大幅な遅れを懸念する声があった事も事実。今後埋蔵文化財の本発掘により更に遅れる可能性も。今後の対応は。**

答弁　令和３年度より用地買収を進めているが、完了できていない。今後も地権者の方に事業の重要性を説明し、提供いただけるよう交渉を行っていく。

再質問　**行政が公権力を発動する強制収用は行わないという方針を、令和４年２月 15 日の全員協議会で撤回を示唆する説明があった。人権教育をつかさどる学校整備として適さないと考えるが。**

再答弁　様々な選択肢の中で真摯に向き合い対応していく。

再質問　**学校整備として、強制収用は進すのか否か。**

再答弁　結論を出す際には慎重に対応していく。

再質問　**市長・副市長が関係者を訪問し協議をしてはどうか。**

再答弁　教育長として訪問等し、今後も対応していく。

再質問　**６年前の当初の小学校統合による分離型小中一貫校の声が大きくなる可能性を否定できない。**

再答弁　現段階でもそうした声があることは理解している。真摯に対応し事業推進を図っていきたい。

未来　佐藤（さとう）　肇（はじめ）

令和４年度当初予算及び提案説明から

質問　**市長就任 10 年目の節目！熱い思い・力強い決意を伺いたい。**

答弁　就任以来、危機的な財政状況を変えねばとの思いで行財政改革に取り組んできた。これが実を結び、経常収支比率では新市発足以来、最も健全な財政を示す数値にまで改善した。しかし、人口減少により地方財政は厳しさを増している。そこで「稼ぐ改革」を重点的に進め「未来の飛躍を約束する予算」とした令和４年度当初予算を通じて選ばれる「桑名市」を創っていく。10 年先を見据え、これまで以上に知恵に挑戦する強い気持ちで市政に取り組んでいく。

人口減少問題について

質問　**全国的な問題、思い切った施策の所見を問う。**

答弁　「桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し「暮らしたい」として選ばれる「桑名市」を推進すべく様々な取り組みを進めているが、人口減少が進行している状況である為、今後はより効果的な施策を視野に入れ問題に取り組んでいく。

消防行政について

質問　**消防庁舎等再編整備予定について、現在プロポーザル方式で公募中であるが、高台移転による現本部管内の消防力・救急力の低下は無いか？**

答弁　現在、市内江場にある出動隊の消防署と指揮調査課はそのまま残す計画で機能は維持される。議員が危惧されている本部の高台移転による消防力・救急力の低下は無いものと考えている。

桑風クラブ　満仲（まんじゅう）　正次（まさつぐ）

地域コミュニティ推進事業について

質問　**地区の自治会連合会を単位とした「まちづくり協議会」の結成状況および交付金を問う。**

答弁　令和３年度末の結成状況は、29 地区中６地区で、この結成地区に対し、令和４年度当初予算で人口・均等割で計 1,083 万５千円が交付される。未結成の地区については、引き続き側面的支援を進めていく。

再質問　**未結成地区に対し側面的支援を主張されるが、行政が計画したものである。合意形成に向け、行政側の積極的支援が必要ではないか？**

再答弁　コロナ禍で講演会等を開催するのは難しい状況であるが、丁寧に根気強く地域と話し合い啓発に努める。

狭あい道路整備等推進事業について

質問　**幅員４ｍ未満の道路が市内各所に見られ、緊急車両通行等に支障がある。新築、建て替え時だけでなく、可能なところから着手できないか。**

答弁　新築建て替え時でなくとも可能な事業であるため、今後についてもパンフレットやホームページなどを活用して、狭あい道路の改善に向けて事業の周知に努め、安心・安全な道路の整備を目指す。

道路防災対策事業費について

質問　**市道巻取歩道線他の道路改良について問う。**

答弁　多度川に架かる通称「もぐり橋」を橋梁点検結果により撤去することになり、迂回して上流の巻取橋を通っていただくため、巻取歩度・巻取福永線の劣化が著しい迂回路区間について舗装工事を施工する。

公明党桑名市議員団　森（もり）　英一（えいいち）

行政のデジタル化について

質問　**オンライン対応型窓口システムについて**

答弁　本庁窓口でのみ受付を行っている手続も多数あり、リモート窓口での申請や相談等も、先進事例を参考に、実施方法やその費用についての検討やテストを行って参りたい。

介護マークについて

質問　**普及と向けて**

答弁　要介護者を地域で支え合う社会づくりを進めていけるよう、令和３年 12 月から介護マークを窓口で配布。市ホームページやゆめはまネットにも掲載し、ダウンロードで活用できるようにしている。

子宮頸がんについて

質問　**キャッチアップ接種について**

答弁　厚生科学審議会において、公費による接種機会の提供等に向けて、対象者、接種の期間、周知、勧奨等について議論されている。国の動向を注視しつつ、医療機関と連携を図りながら希望する方が適切にワクチンを接種できる環境を整えて参りたい。

糖尿病について

質問　**重症化予防の取組みについて**

答弁　桑名市国民健康保険加入者のうち、令和２年度の糖尿病に関わる医療費は、４億 5,700 万円余り。人工透析の原因が糖尿病である割合は、51.4%。生活習慣病予防対策とともに、糖尿病にかかった方の人工透析導入を少しでも遅らせ、医療費が削減できるよう、桑名医師会と連携しながら事業を推進していく。

日本共産党桑名市議団　多屋（たや）　真美（なおみ）

生理用品の無償配布について

質問　**小中学校のトイレに設置している生理用品の現状と今後について？**

答弁　子どもの安心感につながっていると の声がある一方で、保健室で手渡す機会が減ったことで、直接子どもの体調を気遣ったり、様々な情報をキャッチする機会が減ったという声もある。利用状況や子どもたちの様子など、現場の声も聞きながら、支援を必要とする子どもたちへ、確実に届く仕組みづくりを検討したい。

多度地区小中一貫校整備事業について

質問　**小学生と中学生の体の発達、学習の違いなど、小中一貫校で同じ施設で生活するうえで、場所を別々にする必要や様々な配慮が必要である。それらを踏まえた設計になっているのか、どう協議しているのか。** スクールバスの運行にも、様々な課題がある。どう協議され、保護者や地域に説明されているのか。

答弁　令和３年度から、教職員で構成する教育指導部会を立ち上げ、カリキュラムや学校行事、校則などの、協議・検討を始めている。子ども達の発達に応じて生活区域を分け、成長の違いに配慮した設計を行うよう、事業者へ発注していく。
スクールバスも含めた通学方法等についても、地域連携部会を立ち上げ、安全に通えるための通学方法や、子どもたちの負担がなるべく抑えられるよう乗車時間に配慮したスクールバス運行などについて、協議・検討をしていく。

無会派　仮屋（かりや）　武人（たけひと）

市内小中学校のトイレ問題について

質問　**私が以前より再三お願いしている学校のトイレだが、古いし汚いし臭い！！とにかく早く改修してあげてほしい。学校の再編計画と深くつながってくる問題であり、再編により、あと少しで校舎ごと綺麗になるのであれば、「ちょっと待ってね」とお願いできるが、そうでないならば、「せめてトイレだけでも先に直してほしい」という要望がでるのも当然である。トイレ問題に関する見解は。**

答弁　学校施設は、子ども達が１日の大半を過ごす場所であり、なかでも必ず利用する洗面所やトイレなどの環境整備は特に重要と考える。施設整備に要する補助金等の財源確保を図りながら、洋式便器の割合が少ない学校の早期解消が図れるよう取り組む。

駅前広場イルミネーションについて

質問　**駅前のイルミネーションだが、「明るくなっていいね！」と好評の声をたくさん聞く。しかしながら消灯が９時で、イルミネーションが消えると、急に暗くなり、駅前自体が閉店のような感じになる。せめて、終電近い 12 時まで点灯させておけないか。**

答弁　来年度も実施を検討しており、その際には実施時期や点灯している時間について、飲食店等のご意見も踏まえ、地域の皆様と十分協議をし、桑名駅周辺の活気に繋がり、駅前を訪れる方々により楽しんでいただけるような取り組みとなるよう考えてまいりたい。

絆　冨田（とみた）　薫（かおる）

『新西方・在良地区開発の影響は』

質問　**コナハ丘の上病院ができ、さらにその南側は商業予定地、北側は 300 戸近くの住宅団地の開発が進んでいるが、市への人・モノ・カネにどのような影響が出てくると考えているのか？**

答弁　人の流れについては、市外から市内へ社会的人口の増加を期待する一方、交通量の増加を懸念している。今後さらに状況が変化する場合には道路管理者と協議し検討していく。
モノの流れについては地形変化による雨水（排水）の流れへの対応として、開発の規模に応じた指導を行っており調整池が設置されることになっている。
カネの流れについては人口の流入や資産の増加により、税収の増加を見込んでいる。さらには人口増加が企業の雇用促進、ひいては企業誘致につながることで、確固たる財政基盤の確立につながると期待している。人、物、金が循環し、持続可能かつ、快適な暮らしを次世代にも誇れるまちの実現につながるものと考えている。

再質問　**桑名駅方面への人の流れも増え、駅西の駐輪場・駐車場の整備も必要になるのではないか。**

再答弁　交通量推計によると、交通量の変化はそれほどないと見込む。駅周辺の道路整備がされることで、道路状況は改善されると考えているが、ゼロカーボンシティを目指しCO² 削減にむけた取り組みとして、公共交通機関への切替え等を推進していくことも必要であると考える。

フォーラム新桑名　愛敬（げけい）　重之（しげゆき）

道路ついて

質問　**企業誘致推進による道路整備状況等について**

答弁　企業誘致は欠くことのできない最重要施策である。議員からの多度南部エリアの産業誘導ゾーンへのアクセス道路整備が重要な課題であるとの指摘を受け、２つの方法を考えている。一つは県道２路線の改良。県に順次進めてもらっているところ。もう一つは、大山田パーキングエリアへのアクセス道路として の桑名北部東員線整備。令和４年度に概略設計に着手した。

再質問　**道路ストック対策事業の状況等について**

答弁　点検結果に基づき舗装の損傷状況や非常などの交通量、路線の重要性などを考慮し、適切な施工方法を用いた道路舗装の長寿命化や舗装の維持修繕費のライフサイクルコストの縮減を目指して、国からの支援を得ながら整備していくところ。この道路ストック事業について、今年度は引き続き市道坂井多度線の大山田団地内等、当初予算に加え、国土強靭化に伴う国の補正予算等を活用して施行する。

桑風クラブ　諏訪（すわ）　輝雄（てるお）

防災について

質問　**災害発生後の地域生活復興支援策の検討について、桑名市の現状を問う。**

答弁　災害廃棄物の処理については、地域防災計画で示された基本的な考え方を補う「桑名市災害廃棄物処理計画」を策定済みである。仮設住宅建設については、地域防災計画で、基本的な考え方を示した、数ヶ所の仮設住宅建設候補地を公表している。しかしながら現状は、実災害を想定した場合、生活再建を円滑に進める為の事前準備がしっかり整っているとは言えない状況である。
災害時の応急対応は、被災者の救助や医療・救護、緊急輸送道路等の確保、被災者の生活支援など様々な活動が交錯しながら、同時進行で進められる。それぞれの支援策をバランスに進行させると、全体として機能しない計画となる。災害時の応急対策には、優劣はつけられず、特に、応急対策活動の場所の選定は、公的用地だけでは賄いきれないこともあり、事前に決めておくことなど課題も多い。桑名市の抱えるこの課題を解決するため、発災後の具体的な応急対策を検討する必要があり、既存の計画についても見直していく必要があると考えている。
被災の状況によって、応急対策は、様々な様相を呈する。既存の計画の見直しを含めて、あらゆる被災の状況にも、迅速かつ適切な対応が出来る、臨機応変な組織体制構築に取り組んでいきたい。

日本共産党桑名市議団　石田（いしだ）　正子（まさこ）

多様性のある社会の実現に向けて

質問　**中学校の制服を変えるにあたり、生徒や保護者の意向やジェンダーフリーの要素は含まれているのか。**

答弁　近年、性の多様性に関する関心や認知が高まりつつあり、学校においても、性的指向や性自認に関する悩みを抱えた児童・生徒やその保護者から相談を受けるケースが出てきている。中には学校の制服に対する悩みや辛さに関する相談もあり、桑名市立中学校の校長を中心に、制服に関する協議が行われている。その際、児童・生徒・保護者へのアンケートや PTA・学校運営協議会の協議を行うなど、関係者の意向も大切にして進められているところ。
令和４年３月現在、令和５年４月からブレザー、スラックス、スカートを桑名郡市共通のものとして定め、ブレザーのインナーや夏季の上着は各校対応とする方向となっている。

特別障害者手当について

質問　**要介護度４、５の認定を受けた方への周知について**

答弁　特別障害者手当は、国の制度として精神または、身体に著しく重度の障害を有し、日常生活において常時特別の介護を必要とする在宅の障害者に対して、負担を軽減するために手当を支給する制度である。
対象者でありながら、受給漏れとならないよう、広報くわなやや市ホームページにより、制度の周知を図っているほか、障害者手帳取得の手続き等の際に、各種手当の制度や手続き方法などの周知、説明を行っている。

無会派　伊藤（いとう）　研司（けんじ）

２～３人に１人がガンになり、ガンで天国に逝く時代を迎えて

質問　**桑名市総合医療センターを三重大学のサテライト病院［高度な先端技術・医療を提供する直営の病院］にすることについての市の考えは。**

答弁　桑名市総合医療センターは、質の高いガン医療を提供する「三重県ガン診療連携準拠点病院」に令和４年４月から指定される予定となっている。サテライト病院にすることについては、三重大学で開発された技術を地域医療に応用し、医療拠点を設けることは、医療体制の整備につながり、地域の方々や桑名市にとって有益であり、三重大学にとっても地域の医療機関と連携することは有益であると思われる。

再質問　**在宅医療でのガン患者が急変した場合、主治医の病院とのバックアップ体制について**

再答弁　夜間・休日の急変時にもスムーズに受け入れができるように救急外来とも情報共有を図っている。

無会派　伊藤（いとう）　恵一（けいいち）

新型コロナ ＆ 子宮けいがんワクチンは前代未聞の【遺伝子組み換えワクチン】!!実におぞましく今も人体実験中なのだ

質問　**①接種後の死亡例 1,155 名の【新型コロナワクチン】は、同３名のインフルエンザワクチンの 385 倍毒威、②インフルエンザ死亡数 3,325 名、新型コロナはほぼ同数 3,466 人で骨威のウイルスではない、③無症状感染者と濃厚接触しても、感染は０～ 0.4%!!尾身会長は誤り、④ワクチンを打たなくても非感染率は 99.4%以上、国民全員が打つ理由があるのか !? 全くナンセンス!!⑤皆様は遺伝子組み換え食品を子や孫に食べさせますか、⑥将来がある息子や娘たちには決して打たせてはいけない!!（ 週刊現代 ）?PCR 検査は健康な人には必要ない!!⑧あらゆる【マスク】安倍の＆毒ガスマスクもコロナの予防効果はない⑤⑥以外ウィスコンシン医科大学高橋徳名誉教授 」、その認識は。**

答弁　ワクチンは発症・重症化予防効果があるが、副反応の可能性も。国の健康被害救済措置もある。

アウシュビッツ（強制）収容施設

質問　**多度小中一貫校は「義挙で愚挙!!教育施設に見えず収容施設!!に見える」（ 筑波大名誉教授 ）課題は。**

答弁　小中一貫教育実践の最も理想的な施設形態である。

絆　渡邊（わたなべ）　仁美（さとみ）

小児救急医療体制整備状況と受診のための周知方法について

質問　**令和３年 12 月現在、夜間も含めた市内の小児救急医療の受入体制はどの程度整っているのか。保護者へは子どもの急な病気の際、受診のための正しい情報にたどり着けるように分かりやすく周知されているか。**

答弁　小児医療は受診前に、医療機関に電話で診療が可能かを確認していただくことが非常に重要。ホームページ含め更にわかりやすい情報提供に努めていく。
小児救急は市内の４医療機関に御協力を頂き、病院群輪番制をとり、可能な限り受け入れて頂く体制を担って頂いている。

いじめ相談について

質問　**児童・生徒が「いじめ」と感じた時点ですぐ動く相談体制はあるか。**

答弁　子どもたちが教職員に直接相談できる機会としての教育相談や、年３回のいじめアンケートを実施。学校で自らＳＯＳを発信できない児童・生徒が学校外でも相談することができるよう、市や県が電話やＳＮＳによる相談窓口を開設している。

再質問　**今の相談体制で十分か伺う機会を設けているのか。**

再答弁　子供たちが言いやすいという関係が大事。アンケートの形を工夫することで、実際、件数は増えた。少しでも子どもたちが自分の思いを出して、守られているという感覚を持てるように工夫をしていきたい。

絆　水谷（みずたに）　真幸（まゆき）

桑名市総合医療センターについて

質問　**平成 30 年に新病院が開院し、病床稼働率が上がらなかったものの、ベッドコントロールを通切に行い、病床の稼働率が上がってきた。しかし、今回のコロナウイルス感染症の拡大により新規の入院患者数や外来患者数が減少した。経営状況の現状を市としてどのように認識されているのか。**

答弁　総合医療センターの経営状況につきましては、各事業年度終了後に業務実績の報告を受け、外部の有識者から成る評価委員会でヒアリングなどを行い、業務実績を調査、分析し、総合的な評価を行っている。また、毎月、月次報告を受けるなど、経営状況の把握に努めているところ。
令和２年度は、新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保や一部病床の休止、入院制限や不急な手術の延期など、医療機能の縮小を行ったため、入院及び外来患者数は大幅に減少した。しかし、このような厳しい状況の中においても、一定の手術件数の確保や高度な先進医療の提供により、外来化学療法件数が増加するなど、経営改善に取り組んだことから、医業収益は令和元年度と比べてもマイナス 9,000 万円余の減少に抑えることができた。
今後も市と総合医療センターでより一層の情報共有を行い、経営状況の把握に努めてまいりたいと考えている。

絆　渡邉（わたなべ）　清司（きよし）

桑名駅東口周辺整備事業について

質問　**進捗状況について**

答弁　長島観光開発株式会社と、「桑名駅周辺複合施設等整備事業に関する基本協定」を締結し、事業計画の協議を進めてきている。変化に対応した柔軟でゆとりのある、居心地の良い駅前空間を目指し、当初の事業プランの見直しも含め協議を行っている。詰りともって次世代につなぐ駅前広場となるよう、まちづくりのパートナーの長島観光開発株式会社と、地域や関係者と連携を図って行く。駅東口の一体的な整備と、市のさらなる魅力向上につながるよう検討していく。

新型コロナウイルス感染症について

質問　**教職員の負担増対策について**

答弁　幼稚園、小・中学校の教職員は、子供たちの健康管理、校内の消毒作業等、日々の感染防止策、感染リスクを考慮して教育活動の見直しや指導、保護者や子供たちへの不安や悩みへの対応、感染者が発生した場合の保健所への協力や該当児童・生徒・その家族へのフォロー等、多岐にわたり尽力してきた。その結果、感染を抑えることができた一方、教職員の負担は増加。県の支援でスクールサポートスタッフが増員。当初の休校時は教職員が学習プリントを児童・生徒分準備し、各家庭へ配布した。その後、１人１台タブレットが導入され、負担軽減されてきている。今後、ICT 機器の活用や、効率的・効果的な感染防止策に従いながら、負担軽減に努めていく。

絆　成田（なりた）　久美子（くみこ）

西口駅前広場について

質問　**送迎スペースと待機場の確保について**

答弁　広場の整備については、令和６年４月の供用開始に向けて詳細設計を進めているところだが、「桑名駅周辺土地利用構想懇話会」においてご提言いただいた計画条件等を基に、予備設計を行っている。具体的には、縦列式の停車スペースを予定しており、後続車の渋滞・横断時の安全性・長時間の無断駐車などを考慮し、送迎スペースのみとしている。

スマート自治体への転換について

質問　**自動運転実証実験と VR を組み合わせた薬図と、VR を今後観光に活かす取り組みについて**

答弁　令和元年度より、自動運転サービスの導入に向けた検討を進めているが、技術の進歩以外にもビジネスモデルの検討も必要であると考えている。そこで、今回は移動手段だけでなく、異業種との連携による需要創出の可能性を探る実証実験となった。今後も観光活用や商業・飲食との連携等、桑名の魅力発信に繋げていきたいと考えている。

学校トイレへの生理用品設置について

質問　**便利さや手軽さだけでなく、教育的配慮に伴う成長過程を踏まえた心と体への対応について**

答弁　設置して８か月が過ぎ、助かったという声から安心な学校生活につながっていることもわかってきた半面、保健室で一人ひとりに寄り添い、手渡しする今までの体制も、改めて大切にしたいとの思いも多く聞かれており、状況把握に努め尚方のやり方を継続していく。

フォーラム新桑名　伊藤（いとう）　真人（まさと）

施設一体型小中一貫校の整備について

質問　**多度小中一貫校整備事業が、用地取得難航のため開校延期となったが、その対策案を問う。**

答弁　小・中学校の小規模化、学校施設の老朽化もあり、全市的な小中学校の再編に関する計画づくりを速やかに進める必要性があると考えている。計画策定に当たっては、地域からの聞き取りや関係部局との連携が重要。より良い教育環境を実現するため、全市的な小中一貫校整備を今後より具体的に進めてまいりたいと考えている。

再質問　**全市的な長期の小・中学校再編の計画がなかったこと、短期間で学校の再編をしようとしたことが、多度小中一貫校が開校延期となった原因と考える。学校再編は学校運営協議会で行うべきと考えているのか。**

再答弁　学校運営協議会は、地域に「種をまく」機会の一つであると考えている。

再質問　**学校の再編は、地域で時間をかけて協議し、要望のあった地域から再編に取り掛かるべき と考える。教育環境を整備するのは、行政の仕事である。再編計画は、市長の強い思いで進めてもらいたいと考えるが、市長の考えは。**

再答弁　小中の再編は待ったなしの課題。組織の見直しを行うことで、全市的に早期再編に取り組んでいく。

絆　森下（もりした）　幸泰（ゆきやす）

公共交通について

質問　**現在、国道１号より東の旧桑名市街では、日曜日の日中には２路線のバスしか運航されておらず、そのほとんどが公共交通空白地域になってしまっている。市民の移動手段の確保・観光客の移動のために、他の曜日を減便して日曜日のコミュニティバスの運行を検討できないか？**

答弁　コミュニティバスの役割は、交通空白地域における移動手段を確保することと考えている。
すべてのニーズをコミュニティバスだけで担うことは難しく、コミュニティバスに限らず、民間バス、タクシー、鉄道等の交通機関とともに、将来にわたり持続可能な市内公共交通ネットワーク、移動手段の確保について検討していく。

次期総合計画について

質問　**2025 年からの次期総合計画は市民と共に創る、「共創」で作ったものとしてほしい。また地域団体や経済団体、市民活動グループ等だけでなく、特に将来の桑名市を担う中高生世代との対話を必ず取り入れて策定に取り組んでいってほしい。**

答弁　社会が急激に変化する中で、市として目指す将来像を描く計画の策定にあたっては、市民との対話を重ね、「市民と共に創る」「共創」の視点を持って取り組んでいく。また、将来を担う「子ども世代」とも、デジタル技術等の活用を含め、対話ツールを活用し、幅広く意見を取り入れ、反映できるよう取り組んでいく。

絆　倉田（くらた）　明子（あきこ）

防災～管理されていない住居の安全性～について

質問　**空き家の中でも、管理されていない空き家は、災害時に倒壊の危険もあり、二次災害を引き起こす要因になりかねないと思われる。当局の対策を問う。**

答弁　令和４年１月時点で、不適正管理の空き家は 389 件。そのうち危険性の高い空き家は 53 件である。所有者に対し、適正な維持管理を促す通知、指導、勧告を行うとともに、一定の条件を満たす除却に対して補助金制度を整えている。また、令和４年度には土地の固定資産税等の減免を予定するなど、空き家問題解消に取り組んでいるところである。

「隠れ待機児童」に対する取り組みについて

質問　**令和４年４月から「育休退園」が廃止される。慣れ親しんだ保育所（園）に通えなくなり、友達と遊べなくなることから子どもたちへの成育への影響、また保護者の育児支援の観点からも「育休退園廃止」の要望は以前から多く、安堵と歓迎の声をいただいている。しかしながら育休退園廃止により、年度途中で仕事を始める方の子が入所（園）できなくなる「隠れ待機児童」が心配される。「隠れ待機児童」もまた社会問題と考える。当局の見解を問う。**

答弁　令和４年４月に「らいむの丘保育園」が開設され、低年齢児の受け皿が大幅に確保できる。また近年の児童数の推移を鑑み、公立保育所では年齢ごとの利用定数を見直すとともに、私立保育園には低年齢児受け入れのための補助金を交付しており、育休退園廃止の影響が出ないよう、柔軟に取組んでいく。